

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和元年 8月17日
(81号)

中之島こゝろ塾

[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学講座
第85講

「熱く生きる」

山川 晋先生



■ 本当の学園

私は税理士という立場で500社ほどの会社・個人事業主様と関わらせていただいています。30年の上携わるなかで、うまくいく人・うまくいかない人が出てくる。墮落してしまうケースや、途中から改善されるケースなどつぶさに見せていただくことになります。何が違うのか。先哲の言葉にはその教えがあります。

「自分の仕事に打ち込んで魂を磨くことが本当の学園である。」(西田天香)

西田天香さんは滋賀県出身、一燈園を作られた方です。論語読みの論語知らずという言葉があるように、勉強は学問のための学問になりやすい。自分の生き方が変わってこそ、学びには意味があります。どの会社にも経営理念があります。経営理念は命より大事です。日本がここまで骨抜きになったのは、命が一番大事と教えたことからでしょう。少なくとも経営者は、命よりも大事なものがあつたことを解り、経営理念の実現に取組まねばならないと思っています。

私は税理士ですが節税対策が嫌いです。健康に働けている我々は利益を出し、もっと税金を払おう、と社長には伝えています。経済的余裕は絶対的条件、一年間の人件費を払えるだけの現預金を持つこと。自分の仕事に打ち込む、ということは表面的なことではなく、共に働く人間の魂に火をつけるということです。それは社長から社員に、そして取引先にまで広がっていけばなお良い。人間学のベースは魅力有る人間になっていくことです。自分が「花」になれば自ずと「蝶」が集まってくる。学んでも変わらなければ全く意味がありません。

■ 一隅を照らす

言葉は八分にとどめて、後の二分はむこうで考えさせるがよい。わかる者には言わずともわかるが、わからぬ者にはいくら言ってもわからぬ。

(伊庭貞剛)

伊庭貞剛は近江出身の住友の総理事をされた方です。組織論は2(解る者)対6対2(解らぬ者)に分かれます。無知とは、何が正しいかが解らないことです。解らぬ者に無駄にエネルギーを費やしてはならない。

古来聞き難きは道、天下得難きは同志なり。

(中江藤樹)

道は自分で学ばない限り教えてはくれない。同志を得るといふのはすばらしいことです。

一隅を照らす、これ則ち国宝なり。(最澄伝教大使) 私たちがすべきことは、自分の会社を輝かせることです。そうすることによって、周囲に光を投げることになる。例えば、利益が出れば、寄付したり、従業員さんの給料を上げたり、そういったこともまた一隅を照らすことにつながります。中小企業の現実、赤字が七割、しかし私は赤字は犯罪だと思っています。まずは黒字になることが一隅を照らすことです。

若さの本質は、感激する心と自己変革の可能性にある。然るに、錯覚した青春を後で泣く愚者がいる。

(飯塚 毅)

若さとは年齢ではない。感動・感激する心であり、自分を変えていく気持ちです。それがあつたならば青春なんです。

物事に本気で打ち込めない人間には、生活者としての魅力がない。

(飯塚 毅)

仕事であれ、ボランティアであれ役を与えられた以上本気になることです。「生活」とは「生命活動」です。生活者としての魅力とは、家庭がうまくいっていること、親を大事にすることから育まれます。

■ 日本人の労働観

平凡人はいついかなる場合でも、本業第一たるべきこと。本業専一たるべきこと。(本多静六)

広めるよりも深めること。深めるとは、付加価値の高い仕事をするということです。たくさん売るのはなく(広める)、どうしてうちの商品は他所よりも高いのかお客様に納得してもらう(深める)やり方です。

金がないから何もできないという人間は、金があつても何もできない人間である。

(小林 一三)

もう少し〇〇だったら、と人はい言いがちですが、言い訳をするな、という教えです。ドラッグは「経営とは顧客の創造だ」と言っています。創造であれば無限です。

努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。

(井上 靖)

厳しい状況におかれたとき、こうしてみようと努力するのか、愚痴を言うのか。

最小の労力をもって最大の効果を収める」とは「働かずに、金儲けせよ」ということです。イージーゴーイングは、絶対排除し、努めて自ら難関に向かい、いばらの道に入つて、自分を鍛え上げるということです。

(出光佐三)

できるだけ小さい努力で最大の成果を出すのがマネージメントの基本とされるその逆のことを、今から何十年も前に言っています。これが日本人の發送、我々は汗を流すことを大事にしている。できるだけ効率的に手を抜くことなどは日本人はそもそもやっていなかった。働くことは喜びなのです。日本人の労働観のベースがここにあるのです。

(抄録 中川千都子)



《グループ討議》

□ 講師 山川 晋先生

「熱く生きる」

【Aグループ】

- ① 自分の仕事に打ち込む
- ② 努力は、今から・ここから・私から
- ③ 物事に打ち込む人は、一緒にいる人の魂に火をつける

【Bグループ】

- ① 学ぶと同時に、実践が大事
- ② 下足番で光ってみせる
- ③ 先義・後利の経営

【Cグループ】

- ① 目標を持って頑張るのは努力
- ② まず、我われの会社を輝かす
- ③ 若さの本質は、感激する心と自己変革の可能性にある

【Dグループ】

- ① 頭↓胸↓腹に落とし込む
- ② 天の使命＝試験は神さまが試しておられる
- ③ 経営理念「社員を守る」

【Eグループ】

- ① 納税義務を果たす
- ② 生きるとは燃えることなり
- ③ 頭から腹の落とす(数多く頭に入れる)



《読書会》Aグループ

- ・指導 近藤宏枝 世話人
- ・テキスト 森信三先生『一語一含』
- ・進行 山路直美 世話人

七月四日

われわれ人間は、死というものの意味を考え、死に対して自分の心の腰が決まってきた時、そこに初めてその人の真の人生は出発すると思うからです。

七月十日

人間も、真の逆境の期間は、概して短きものなり。大たいのところは、正直三年と心得て間違いないからむ。

七月十六日

高すぎない目標を決めてかならず実行する。ここに「必ず」とは、唯の一度も例外を作らぬ という心がまえをいうのである

七月二十四日

如何にささやかな事でもよい。とにかく人間は他人のために尽くすことによって、はじめて自他共に幸せとなる。



《読書会》(Bグループ)

- ・指導 宮武清寛代表
- ・テキスト 『仮名論語』 学而第一輪読
- ・進行 大西由香 塾生

◆子曰わく、巧言令色鮮なり仁。
僧子曰く、吾日に吾が身を三省す。人の為に謀りて忠ならざるか、朋友と交わりて信ならざるか、習わざるを傳うるか。

◆子曰わく、弟子入りては少なり孝、出でては則ち弟、謹みて信、汎く衆を愛して仁に親しみ、行いて餘力あれば、則ち以て文を邦に至るや、必ず其の政を聞く、これを求めたるか、抑々之を與えたるか。

子貢曰わく夫子は温良恭儉讓、以て之を得たり。夫子の之を求むるは、其れ諸れ人の之を求むるに異なるか。

◆子曰わく、君子は食飽くを求むること無く、居安きを求むること無し。事に敏にして言に慎み有道に就きて正す。學を好むと謂うべきのみ。



《大悟徹底》

寺田一清先生寄稿録



「人生の師」

坂村真民先生の詩に、「リンリン」と題する一編の詩があります。

「リンリン」

燃火のように

リンリンと

燃えていなければならない

鈴虫のように

リンリンと

訴えていなければならない

禅僧のように

リンリンと

鍛えていなければならない

梅花のように

リンリンと

冴えていなければならない

この一編の詩を、『幻の講話』(第一巻)の「人生の師」と題する講話の始めに、白板に板書せられております。

森信三先生のご風格にピッタリの詩と思われてなりません。かかる詩に私が、三八歳の時、めぐり逢うことができたことは、わが人生における、至福のいたりと申してもいい。まさに凜平たるお方でありました。この『幻の講話』の一節において、

「われわれ人間というものは、師を持たねばならぬ。もしそれが終生をつらぬく人生の師であつたら、それはこの世における最上の幸せだと思えます。」とあります。

思えば私のような薄徳凡愚の身にとつて、生涯をつらぬく良き師にめぐりあいの不思議を思えば、神天のお情けとしか言いようがありません。

摩訶不思議 わが生涯の無二の師に
めぐりあいにし 無上の恵み

機関紙「若竹」平成二十四年四月掲載より

《森信三先生に学ぶ「ミニ読書会」》

◆ テキスト 森信三先生「二日一語」
◆ 指導 近藤宏枝世話人
田中樞子塾生

◆ お世話 西村俊幸世話人

七月二日

この地上には、一さい偶然というべきものはない。外側から見れば偶然と見えるものも、ひと度その内面に立ち入ってみれば、ことごとく絶対必然だということがわかる。

七月六日

人間の偉さは才能の多少よりも、己に授かった天分を、生涯かけて出し尽くすか否かにあるといつてよい。

七月十日

足下の紙くず一つ拾えぬ程度の人間に何が出来よう。

七月十二日

肉体的な距離が近か過ぎると、真の偉大さは分かりにくい。それ故その人の真の偉さが分かるには、ある程度の距離と期間を置いて接するがよい。

七月十七日

肉体的苦痛や精神的苦悩は、なるべく人にもらさぬこと。人に病苦や不幸をもらして慰めてもらおうという根性は、甘くて女々しいことを知らねばならぬ。

七月十九日

人間は退職して初めて肩書きの有難さがわかる。だが、この点を素直にいう日尾はほとんどない。それというのも、それが言えるということは、すでに肩書きを超えた世界に生きていなければできぬことだからである。



《淀川掃除に学ぶ会》

短信 志村隆夫

8月4日(日)連日の猛暑にもかかわらず、26人の方が参加して下さいました。ゴミは思ったより少なく一般ゴミが12袋。ペットボトル1袋、缶と瓶が1袋でした。

奈良から参加されている松山様が冷たいソーメンアイスコーヒーお茶、菓子パンなどを用意して下さい、有り難く頂きました。

東様がお亡くなりになられ、東様の代わりをして下さり、皆さま大喜び感謝です。

また、よしや様からお茶、水のペットボトルの差入れを頂き最後にジャンケン大会で4ケースのお菓子を賞品に頂き盛り上がりました。

来月は9月1日(日)に開催予定です。暑い日が続きませんが、どうぞ奮ってご参加下さい。



《人間学塾・中之島》

■ 第八期「入塾式」

※日時 令和元年9月14日(第2土曜日)

※場所 大阪大学中之島センター 10 F

大阪市北区中之島四丁目三三

※日程 第一部「入塾式」

第二部「交流会」

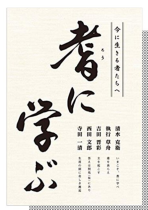
◆ 第八期への「継続」は、お済みですか??

お済みでない方は、受付に「確認はがき」を準備していますので、提出を宜しくお願い致します。

《お薦め書籍》

『耆に学ぶ』

清水克衛・執行草舟・吉田晋彩
西田文郎・寺田一清 共著



出版社 エイチエス
頒価 二一六〇円(税込)
ISBN 13 978-4903707686

本来、老は「知恵者」「徳の高い人」という意味なんです。江戸時代には「老中」とか「大老」とか「家老」とか高い地位の人をこう呼んでいました。旨い知恵で、我々が進むべき道を示してくれている、それが「老」であり「耆」です。今こそ耆に学びましょう。清水克衛 今こそ耆に学べ
執行草舟 毒を食らえ
吉田晋彩 主を起こす
西田文郎 答えは問処(脳)にあり
寺田一清 生涯の師に奇しき邂逅

《芳信抄》

鍵山秀三郎先生(東京都目黒区)

池田整治先生のお説を拝読致しまして、日本の国と日本人の役割の重要なことを、改めて再確認致しました。

これから熱くなります、お大事になさってください

中島和之様(鹿児島県日置市)

『塩狩峠』の話は感動です池田整治先生の話は、本当に命をかけて国民を守ろうとするプロそのものです。

紙面で知られる以上の感動が、人間学塾の現場にはあるということ、入塾の価値はそこにあるのですね。スタッフのみなさまの弛まぬご尽力に敬服です。

山下武彦様(埼玉県児玉郡)

グループ討議の様子、すばらしく思います。現実のこのこととしてはその本当のことが、なかなか知られないのが、問題ですね。でも自分がどう判断しどのように行動するかが重要なことですね。

郊外学習 湊川神社や楠公についてまったく無知であっただけに、古来の歴史観についても、もっとと学ばねばならないと思いました。

大出雅一様(埼玉県川越市)

『塩狩峠』の主人公の生き方には強く胸打たれます。池田先生の生き方の原点が主人公の生き方にあるというのも、先生の辿った人生の歩みと合わせて考えるとよくわかります。エゴで生きる人間の多いなか貴重な問題提起だと思います。

楠木正成の生き方も日本人の生き方の原点を示すものとして受け取らせていただきました。今、日本

人の生き方が問われていると考えます。

加藤秀夫様(宮城県名取市)

小説『塩狩峠』にある原点、地下鉄サリン事件の真実を通して大和は愛の国の再興は、ありがたい提言でした。

郊外学習参加記、宮武清寛様、中村美智留様の寄稿は、日本人本来の思考、・道徳の原点に還ることの大事、学びました。

坂部智一様(愛知県豊田市)

梅雨明けしておりませんが、夏の空を見上げ、くつきり浮かぶ白い雲の美しさに心ワクワクしております。恩義の情について道友のみなさまの実践のお話を読ませて戴いています。

中江藤樹先生・楠木正成公のお姿と重なります。

桂 誠司様(愛媛県四国中央市)

湊川神社は、神戸に住んでいた時、ほぼ毎日行っていた場所で、あの石段に座り弁当を食べておりました。あの空気が好きだったのです。こんな凄い方が参詣されていたとは存じませずお恥ずかしい。

『塩狩峠』は、私の人生に大きな影響を与えた一冊です。

柴田久美子様(岡山市北区)

池田先生の抄録に驚き覚えながら拝読いたしました。「死」と向かい合いながら愛の世界をそこに見る私です。愛の世界を次の世代に渡せるために、活動に尽くします。